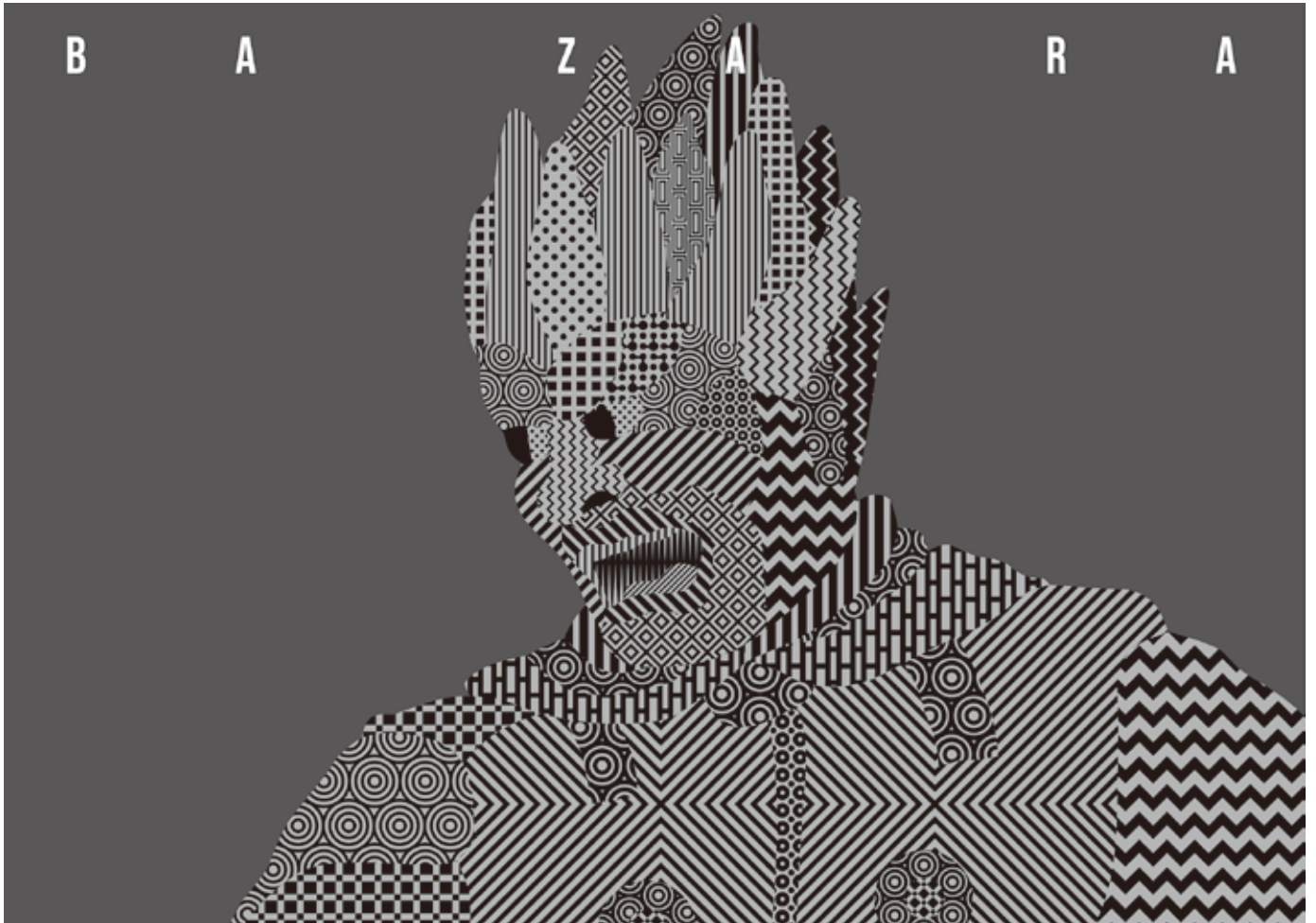


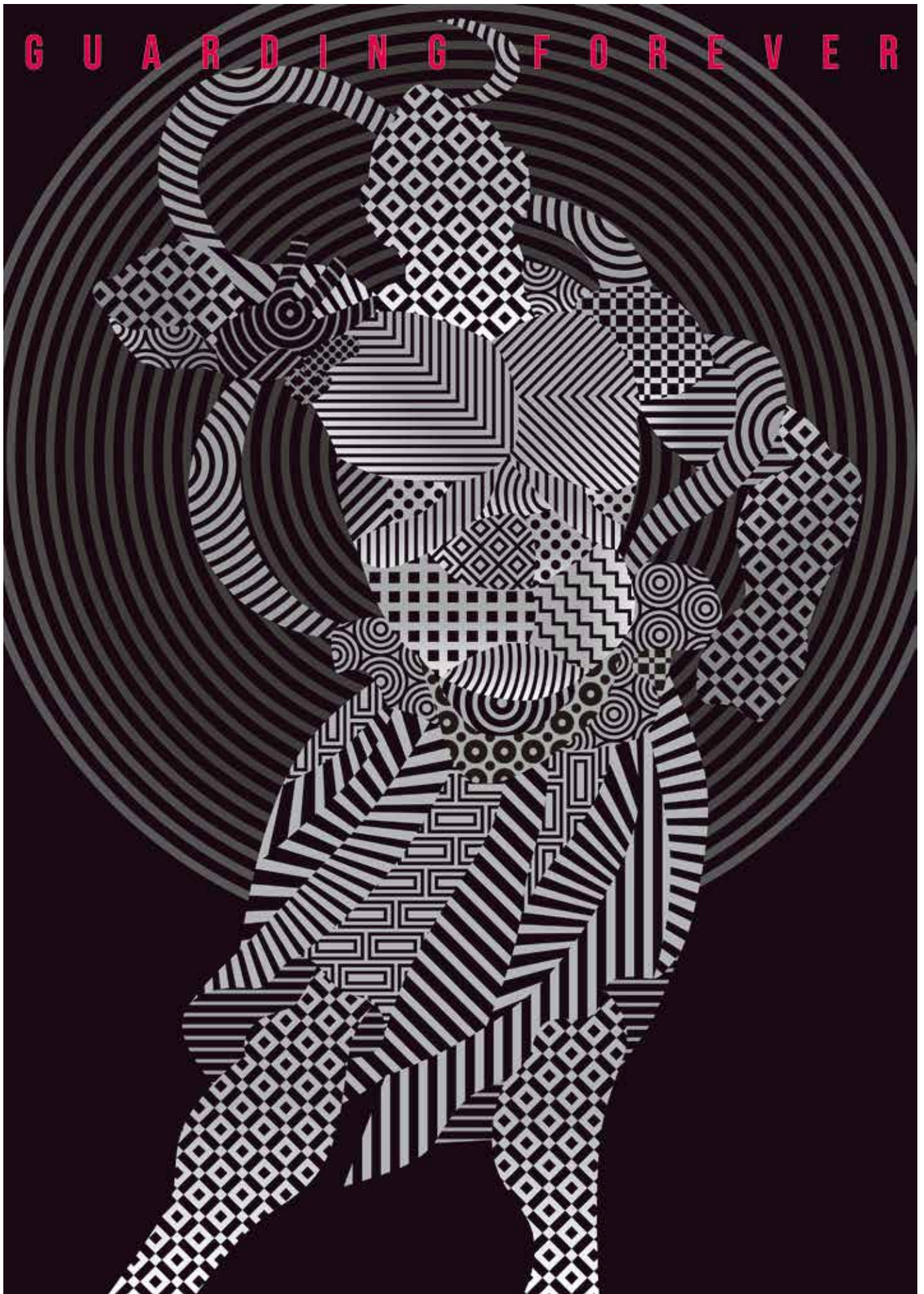
ポスター表現における幾何的パターンの活用の研究
Research of geometric patterns in poster design

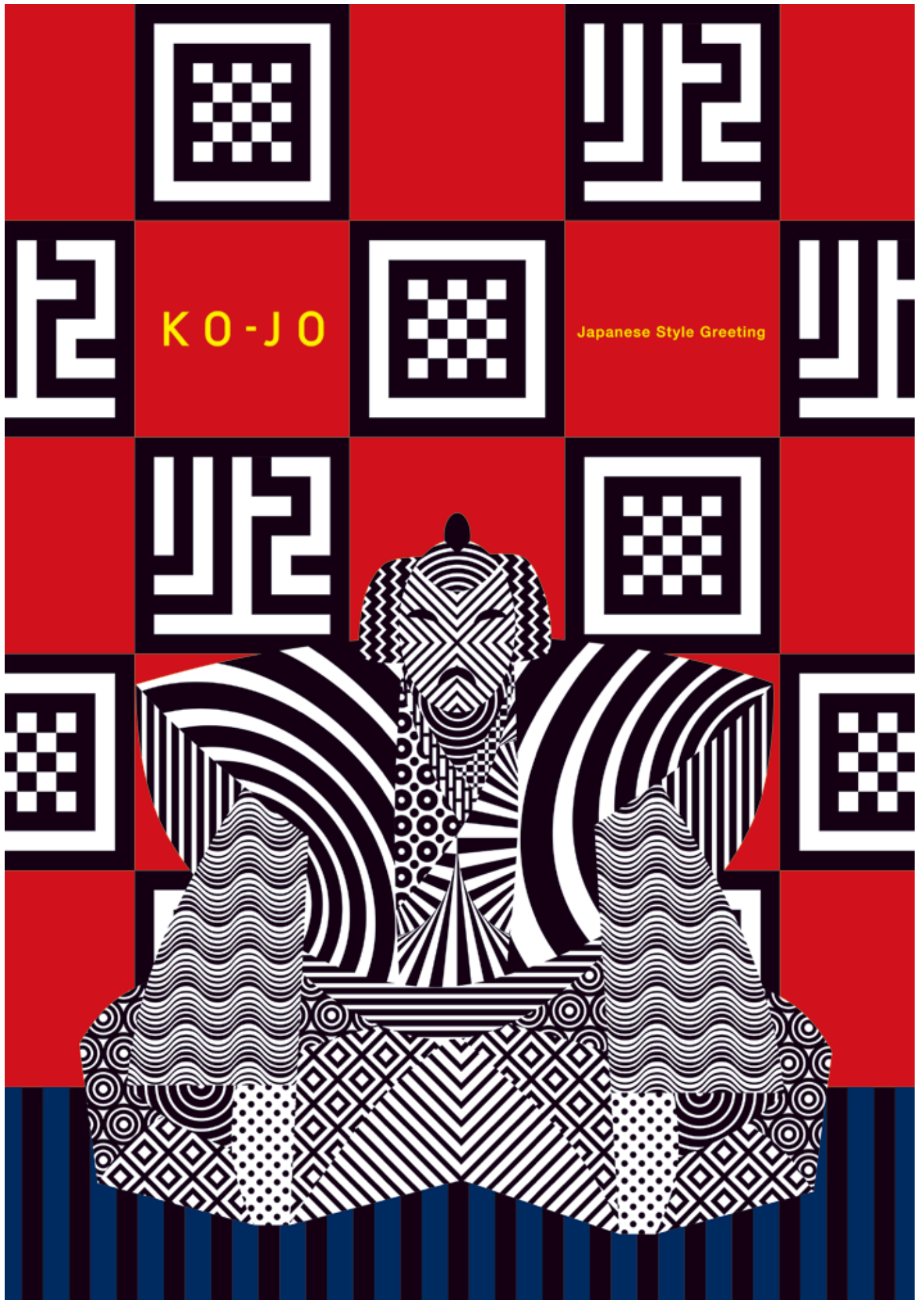
村田直哉
MURATA Naoya

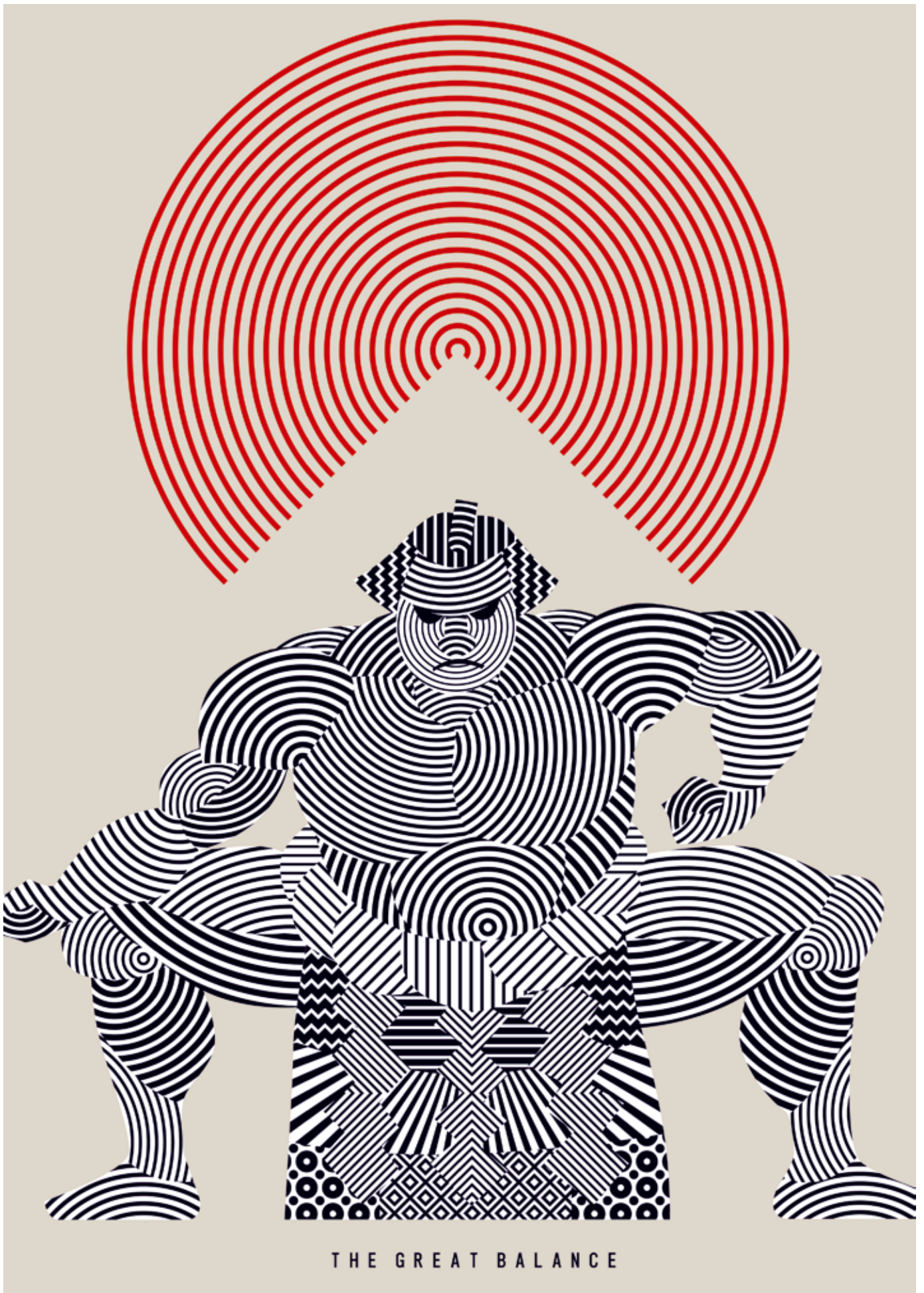


Time Card Gallery 27 ー幻の本ー「伐折羅王」

「幾何的パターン」と聞けば、一般的には四角形や円を使った抽象的な造形としてイメージされる場合が多く、グラフィックデザインの分野では背景などに補足的に使用されるケースが多い。その理由としてポスターなどの広告メディアのメインビジュアルとしてはメッセージ性が弱いのではないかと考えている。確かに写真やイラストレーションと比較するとストライプやドットなどがインパクトに欠ける印象は否めない。それ以外にも、私自身はこれが一番大きい理由ではないかと感じている点として、幾何的パターンには絵画などにおける強烈なオリジナリティや作家性が弱い。エッシャーなどの作品に多くみられるパターンは使用されているエレメントが絵画的であるため、それらがパターンの的に扱われているが、強烈な作家性は維持されている。一方で幾何的パターンにはそういった絵画的な作家性は乏しい。しかしながら幾何的パターンには私自身がこれまで研究してきた錯視効果など、写真などにはない表現効果と魅力を持っていると考えている。現に1960年～70年代のビクトル・バザリヤやブリジット・ライリーに代表されるオプアートを参考にしても、幾何的パターンが鑑賞者に対し動きや立体感、ぶれや波の動きなど視覚を幻惑させるような効果があることも事実である。これらの幾何的パターンから得られる効果をどのようにしてグラフィックデザインの分野に取り入れ、ビジュアルコミュニケーションの手段として活用できるかを試行錯誤している。



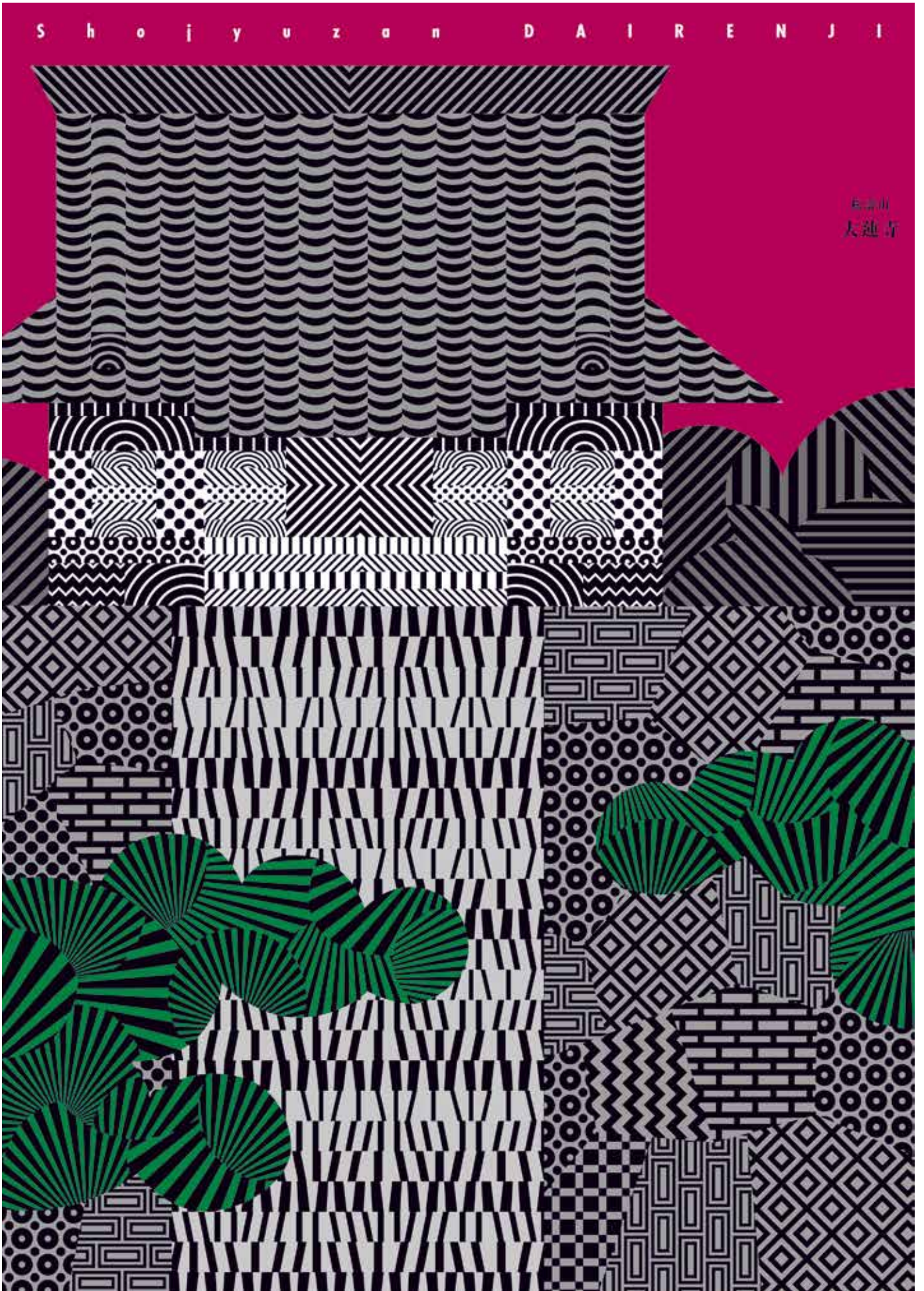




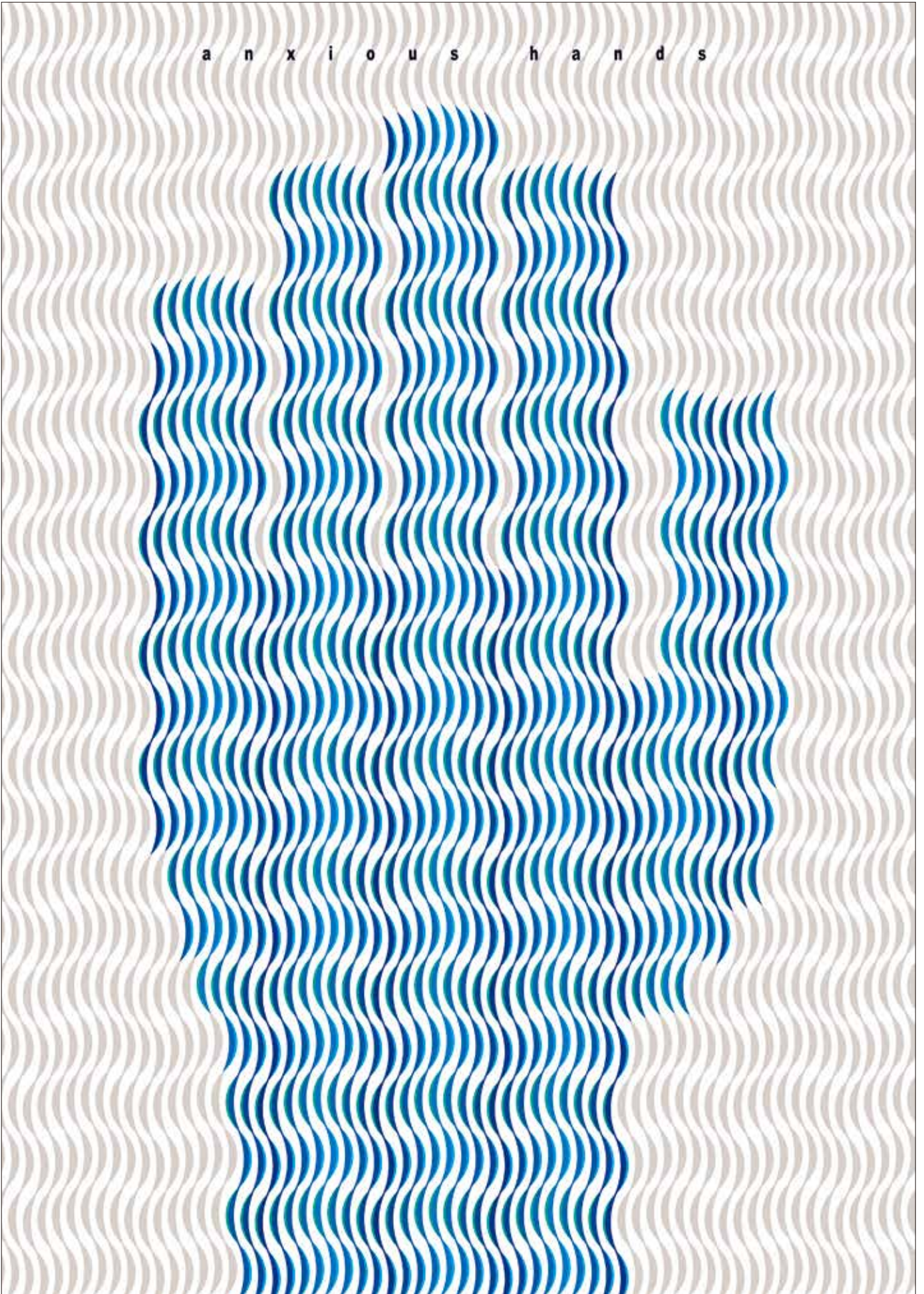
THE GREAT BALANCE

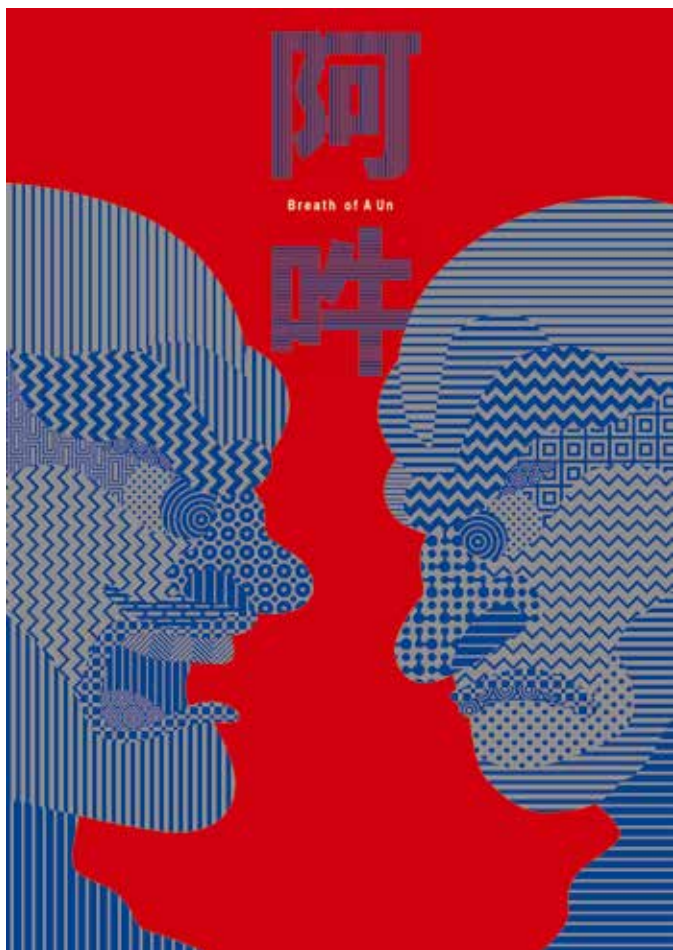
S h o j i y u z a n D A I R E N J I

長谷川
大進 著

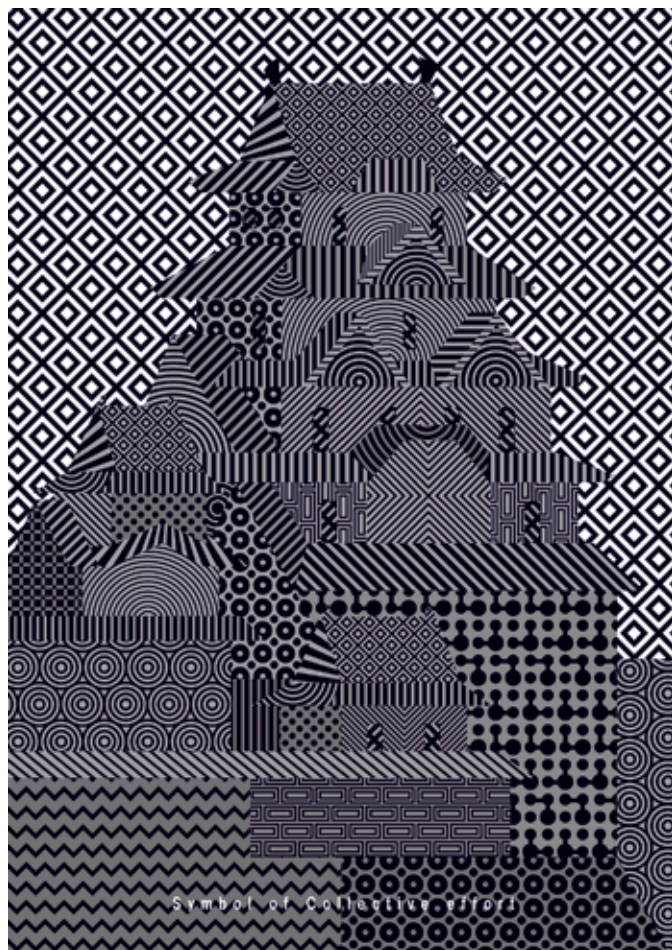


a n x i o u s h a n d s

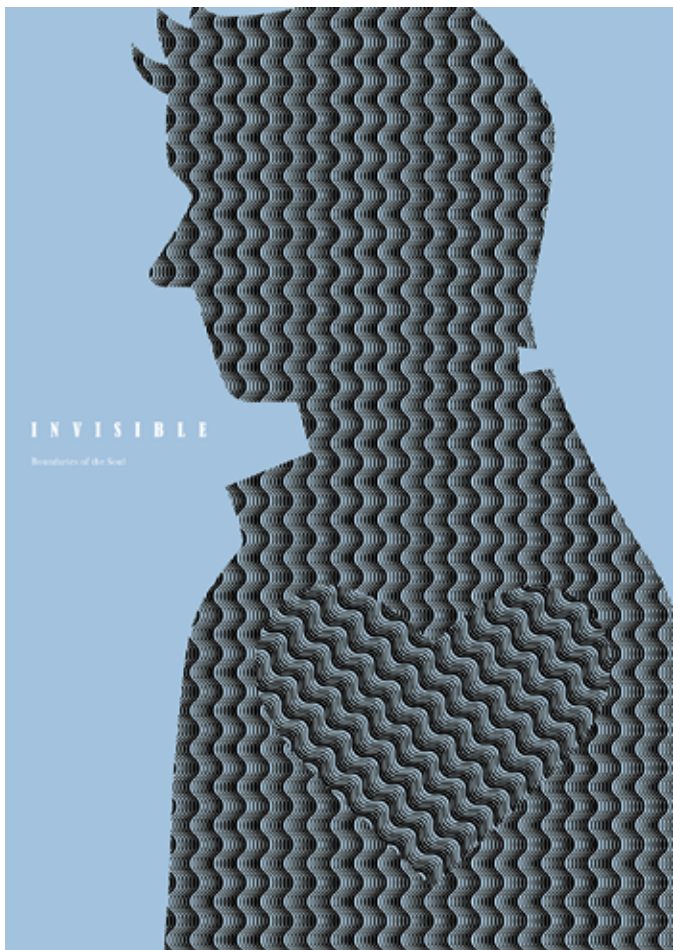




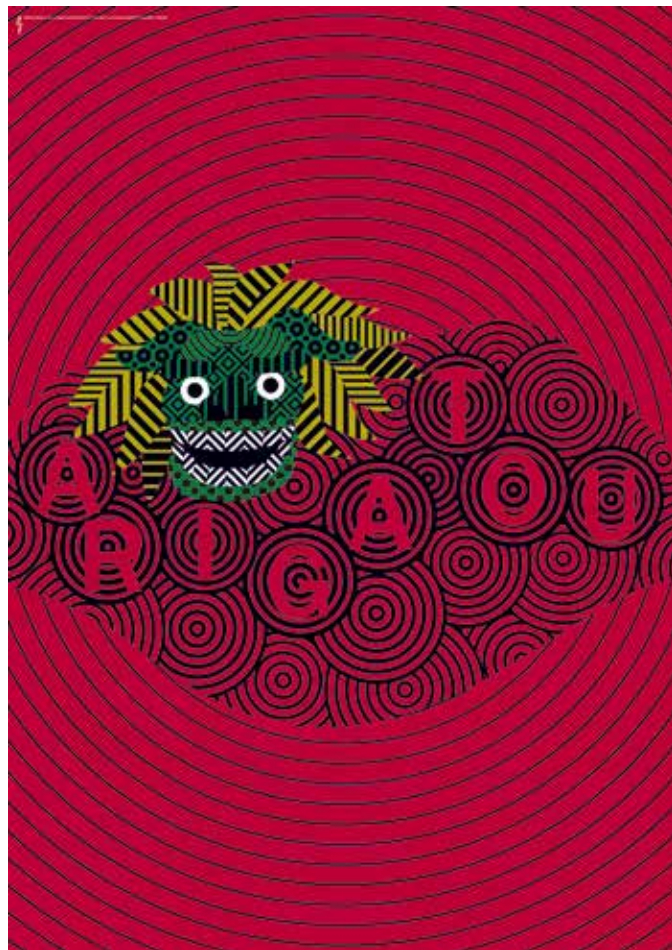
KECD International Poster Exhibition 2020 [breath]



11th Asia Graphic Design Triennale 2021 [The collective]



中部クリエイターズクラブ展 2019 [境界]



日本グラフィックデザイン協会愛知展 2021 [ありがとう]